

平成24年度山口県立豊浦高等学校 学校評価 校長 (伊藤 薫)

<p>1 学校教育目標</p> <p>校訓三綱 至誠一貫・進取向上・自治協同</p> <p>教育方針 真理を求め、正義を愛し、常に学問の研究と教養の向上に努め、健康にして明朗、以て民主的國家の建設に、有為の人材たる生徒を育成する。</p> <p>学校運営の基本方針 「文武一徳」の人づくり 知と体を鍛え、徳の備わった、社会のリーダーたる人材の育成</p> <p>1 学力の充実 2 礼法の確立 3 環境の美化 4 規律の厳守</p>

<p>2 現状分析</p> <p>文武両道の校風の基、全人的発達を目指した教育を伝統的に進めており、その成果については生徒・保護者・地域において評価されている。最近の進学実績、部活動の対外的結果においても前年度を超える実績を残している。生徒・保護者アンケートでも好意的に評価されており、伝統が継承されている。</p> <p>一方、入学生の学力層の広がりは大きく、伝統の校風を維持発展させるためにも、対外的広報や、生徒の学力伸張のために具体的手立てを研究・実践していく必要がある。また、学校不適應の生徒も毎年若干名出ており、生徒一人ひとりの抱える環境や問題に対応した個別の指導を進めていく必要がある。</p>

<p>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題</p> <p>【平成24年度の重点目標】</p> <p>1 学習習慣の確立と学力の向上 2 進路実現を図る指導の充実 3 部活動・学校行事等の活性化 4 開かれた学校づくりの推進</p> <p>【平成24年度チャレンジ目標】</p> <p>① 学年＋1時間以上の家庭学習 ② 掃除の徹底</p>

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教務	学習習慣の確立	予復習の課題を課し、学習習慣の確立をはかる	4:予復習の課題を課し、提出の確認を行い、学習習慣の確立につながった。 3:予復習の課題を課し、提出の確認は行ったが、学習習慣の確立にはつながらなかった。 2:予復習の課題を課したが、提出の確認はしなかった。 1:予復習の課題を課さなかった。	3	(1) 予復習の課題を課した割合は93%である。 (2) 課題の提出確認は90%である。 (3) 予復習の課題により学習習慣の確立ができなかったは24%である。 以上のことから課題を課す事や提出の確認は概ねできているが学習習慣の確立につながる取り組みとしては不十分である。	適切な課題を出すことによって、家庭学習習慣の定着や授業の予習や復習になり、学力の向上に効果がある。ただし、各教科で量的なバランスをとることが大切である。また、課題の評価法についてもさらに考えて欲しい。	B
	学力の向上	互見授業を行い授業改善に努める	4:互見授業を行い、授業改善ができた。 3:互見授業を行い、授業改善のヒントを得ることができた。 2:互見授業を行ったが、授業改善に結びつかなかった。 1:互見授業を実施しなかった。	3	(1) 互見授業を行った割合は87%である。 (2) 授業改善やそのヒントを得られた割合は84%である。 以上のことから、互見授業が指導方法の改善につながり、学力向上の助けになっていると考えられる。		
生徒指導	自転車通行マナーの徹底[生徒]	自転車点検を実施する。 交通安全教室を実施する。 登校指導を実施する。 全体集会で諸注意をする。	4:十分指導ができた。 3:ほぼ計画通り指導ができた。 2:あまり計画通り指導ができた。 1:ほとんど指導ができなかった。	3	(1) 1学期当初、3学期にそれぞれ自転車点検を行い、整備の徹底がほぼできた。 (2) LHRにおいて全校生徒を対象に、警察の指導による交通安全教室を開いた。 (3) やむを得ない都合により、実施できない場合もあったが、個別に交代することで対応し、ほぼ毎日実施することができた。また、生徒による啓発活動も行った。 (4) すべての全校集会において、生徒への諸注意を促すことができた。	生徒の交通安全については、引き続きよく指導して欲しい。特に自転車通学指導をよろしく願いたい。 登校指導には毎日感謝している。 家庭の問題を抱えていたり、社会性が育っていない生徒が増えてきており、担任以外に生徒を助ける教育相談の仕事は大切だと思う。	A
	基本的な生活習慣の確立[全]	登校指導を実施する。	4:毎日実施した。 3:ほぼ毎日実施した。 2:あまり実施できなかった。 1:ほとんど実施できなかった。	3	やむを得ない都合により、実施できない場合もあったが、個別に交代することで対応し、ほぼ毎日実施することができた。		
	精神的健康の保持[担当]	担任の活動を尊重して、生徒と担任の関係をサポートする。	4:担任のサポート役として機能した。 3:担任と情報を共有した。 2:担任との連絡が不足していた。 1:状況を放置した。	4	担任と協同して、面談や家庭訪問を行い、生徒の諸問題に対応した。		
進路指導	初期指導の徹底	入学後の学習習慣の確立につながる取り組みを実施する。	4:十分な実施ができた。 3:ほぼ実施ができた。 2:あまり実施できなかった。 1:ほとんど実施できなかった。	3	学年主導で初めて勉強合宿が行われた。また、家庭学習の定着に向けたいくつかの取り組みがあった。次年度にはさらに発展させた内容の初期指導を実施していく。	普通科の学校は、進学実績を上げることが生徒募集の鍵である。進学実績を上げる方策について、生き残りをかけて検討しなければいけない。 早い段階から、自分の将来について、考えさせる指導が大切である	B
	進路情報の提供の充実	進路資料室の資料充実、進路新聞の発行などで情報の提供を行う。	4:十分な実施ができた。 3:ほぼ実施ができた。 2:あまり実施できなかった。 1:ほとんど実施できなかった。	4	進路資料室を生徒がより活用しやすい場所に移動した。自習室としても利用ができる環境ができた。		

総務	学校安全の徹底	学期ごとに施設設備点検を実施する。	4:施設設備点検実施率が90%以上であった。 3:施設設備点検実施率が70%以上であった。 2:施設設備点検実施率が50%以上であった。 1:施設設備点検実施率が50%未満であった。	4	各学期の終わりの期末考査期間中を利用して全教員が掃除区域ごとに安全点検を実施し、不良箇所については事務室の積極的な協力により、補修ができた。	生徒・保護者の学校アンケート結果から、情報発信についての評価が上がっている。これからも、本年度の重点目標にあるように積極的に開かれた学校づくりに進めて欲しい。	A
	情報利用の促進	教職員の情報活用能力の向上を図り、セキュリティ意識を高める。	4:研修を3回以上実施した。 3:研修を2回実施した。 2:研修を1回実施した。 1:研修を実施しなかった。	4	校内研修の実施により、月1回のウイルス検索の実行等、セキュリティ意識の向上が図られた。		
	情報提供の充実	分かりやすいホームページで、学校情報の整理・発信を行う。	4:学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で評価2以上が80%以上であった。 3:学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で評価2以上が60%以上であった。 2:学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で評価2以上が40%以上であった。 1:学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で評価2以上が40%未満であった。	3	豊浦高校ホームページを今年から新しく作製し、きれいで見やすいホームページになった。また、ホームページ担当者会議も6回実施し内容の充実、更新を行った。		
保健体育	健康の促進	虫歯未治療者に治療勧告を学期ごとに実施する。	4:治療した者が70%以上であった。 3:治療した者が50%以上であった。 2:治療した者が30%以上であった。 1:治療した者が30%未満であった。	3	昨年度よりも若干治療率は上がったものの極端な上昇はみられなかった。これは、部活動等の諸活動が盛んな学校であるために受診時間の確保が困難な状況であることもあるが、生徒自身の健康に関する意識の不足が考えられる。	昨年より、治療率が上がったことは良いが、部活動においてもさらに積極的な治療を促すとともに、時間的な配慮も必要である。	B
	図書	図書室利用の促進	生徒・教職員のニーズに応じた資料を整え、貸出の増加を図る。	4: 昨年度より貸出数が大幅に増加した。 3: 昨年度より貸出数がやや増加した。 2: 昨年度と貸出数が同じであった。 1: 昨年度より貸出数が減少した。	3		
1年	日々勉強日々実践日々進化116期は強き心と体の育成をめざす	遅刻・欠席を減らして授業に出席し、基礎学力の充実を図る。	4:出席率が年間平均で98%を大きく上回った。 3:出席率が年間平均で98%に達した。 2:出席率が年間平均で98%に達しなかった。 1:出席率が年間平均で98%を大きく下回った。	4	長期欠席者はなく、日々の授業や部活動等に熱心に取り組め、基礎学力の充実や強い心と体の育成を図ることができた。	スケジュール帳を持たせて、自分の行動管理をする能力を育成することは将来非常に役立つことである。できれば、今年の成果を検証して、全学年で取り組ませても良いと思う。 学習時間を増加させる取り組みは非常に難しいが、学力向上のためには絶対に必要である。進路指導の充実などいろいろな角度から指導し、生徒の意識を高めて欲しい。 今後も学習環境の整備という点で、環境の美化については、努力して欲しい。	B
	スケジュール帳を全員に1冊ずつ持たせ「段取り力」を身につける。	4:80%以上の生徒がスケジュール帳をほぼ毎日活用した。 3:50%以上の生徒がスケジュール帳をほぼ毎日活用した。 2:30%以上の生徒がスケジュール帳をほぼ毎日活用した。 1:ほぼ毎日スケジュール帳を活用した生徒が30%に満たなかった。	2	スケジュール帳を全員に持たせ、自由に使用させた。また、学期に1回程度提出させてその様子を見守った。生徒によって活用の仕方・程度はまちまちであったが、1年間を振り返って「段取り力」が身についたと回答した生徒は全体の37%であった。			
2年	進路実現に向けて学習の充実を図る。環境美化にも努める。	学習意欲を高め、受験に立ち向かう学年集団を作り、学習習慣の確立と基礎学力の向上を図る。	4:学習意欲が高まり、基礎学力が向上した。 3:学習意欲がほぼ高まり、基礎学力もやや向上した。 2:学習意欲がほぼ高まったが、基礎学力はあまり向上しなかった。 1:学習意欲が高まらなかった。	3	学年全体では学習意欲は高まっており、基礎学力の向上にも手ごたえを感じている。受験に向けて、団体戦で立ち向かうように指導していきたい。学習環境は整備されており、落ち着いた学習ができています。		
3年	進路を自ら切り拓いていける力の強化	面談・個別指導を行う。進路資料室の積極的な活用を図る。	4:年間を通して十分な指導が出来た。 3:年間を通してほぼ十分な指導が出来た。 2:年間を通してあまり指導が出来なかった。 1:年間を通して全く指導が出来なかった。	3	各学期に複数回の個人面談を実施し、3年生それぞれの進路実現に向けて、細かく進路指導をすることができた。また、受験に向けて進路指導室を活用させることもできた。		
チャレンジ	学年+1時間以上の家庭学習時間	各学期に家庭学習状況を調査し、学習意欲の喚起を図る。	4:学習時間が達成され、学力が向上した。 3:学習時間がほぼ達成され、学力もやや向上した。 2:学習時間がほぼ達成されたが、学力はあまり向上しなかった。 1:学習時間が達成されなかった。	1	二回の学習時間調査を行ったが、目標を超えた学年は3年生だけであった。生徒は家庭学習の必要性は認識しているが、習慣化できていない。次年度は一年生の初期指導を充実させ、家庭学習習慣の早めの定着を図りたい。		
	掃除の徹底	各学期に清掃状況を調査し、掃除の徹底を図る。	4:掃除の徹底率が90%以上であった。 3:掃除の徹底率が70%以上であった。 2:掃除の徹底率が50%以上であった。 1:掃除の徹底率が30%以上であった。	4	破損箇所が数箇所あったが、各掃除区域における掃除の徹底は達成できた。引き続き良い環境をつくっていききたい。		
業務	学校の組織等	校務分掌の各課・係及び委員会の業務の整理、人員配置の適正化によって学校運営の一層の効率化・適正化を図る。	4:分掌各課・係及び委員会の整理が3つ以上実現でき、業務の適正化が進んだ。 3:分掌各課・係及び委員会の整理が2つ以上実現でき、業務の適正化が進んだ。 2:分掌各課・係及び委員会の整理が1つしか実現できなかったが、職員間に分掌見直しの共通理解が深まった。 1:分掌各課・係及び委員会の整理が実現できず、学校運営の効率化・適正化が図れなかった。	2	平成25年度より、図書課を総務課に編入し、現在の7課体制を6課体制へ変更することが決定した。個々の業務については手続等を簡略化するなどして適正化は進んだが、各課分掌の業務の適正化については、業務の移動ができなかった。	最近では家庭教育や地域の教育力が低下しており、学校教育に全てが任せられる傾向がある。そのため、学校の先生方の業務量が増えていると思う。そんな中でも、できるだけ業務を精選し、業務改善を進めて欲しい。先生方が元気でないと元気な生徒、活力のある学校づくりはできないと思う。	
	日常的な業務	会議の統廃合と資料の事前提出の一層の徹底で所要時間の20%削減を図る。	4:3会議の削減と所要時間20%削減が図られた。 3:2会議の削減と所要時間15%削減が図られた。 2:1会議の削減と所要時間10%削減が図られた。 1:会議削減ができず、所要時間の削減も10%未満であった。	2	種々の会議や研修を予定された職員会議に続いて実施し、会議の実施日を減らした。会議時間の短縮は不十分である。		

不 改 善	部活動等の在り方の検討	部活動の内規を再検討し、生徒の家庭学習時間を確保し、教員の部活動に係る負担軽減を図る。	4:部活動内規を再検討し、生徒の家庭学習時間の確保及び教員の負担軽減が図れた。 3:部活動内規を再検討し、やや生徒の家庭学習時間の確保及び教員の負担軽減が図れた。 2:部活動内規の再検討を行ったが、不十分教員の部活動の実態への理解は深まったが、内規の見直しには至らなかった。 1:部活動内規の再検討が行われなかった。	3	定期考査中の練習時間の適正化について職員会議等で協議し、ルールの徹底により生徒の学習時間への配慮や教職員の負担の軽減をある程度図ることができた。	C
	勤務状況 夏期厚生計画及び代休の完全取得	点検表を作成し、期間内の完全取得を進める。	4:達成率100%であった。 3:達成率80%以上であった。 2:達成率50%以上であった。 1:達成率50%未満であった。	2	昨年より取得率がやや向上したが、取得率が72%と低かった。次年度は生徒・教職員の健康管理のためにも長期休業中に適切な休養日をできるだけ設けるようさらに助言したい。	

6 学校評価総括（取組の成果と課題）

教務

互見授業は互見授業週間の設定を行ったことで実施しやすい環境が整い活発に実施された。生徒の授業アンケートで「わかりやすい授業」の割合が高いことから授業改善が行われていると言える。より一層の成果をあげるには教科の枠を超えた取り組みも必要であろう。また、家庭学習の定着という課題に対し、予復習の課題を出すことで解決を試みたが、授業アンケート結果、学校評価の結果からも不十分であることがみられる。次年度に向けて課題を課し、提出を求めるだけでなく、予復習をしていることを前提とした授業の展開を図っていくことが必要である。

生徒指導

組織的、計画的な指導や繰り返しの指導、早期対応の指導により、各種問題を最小限に抑えることができ全体的には落ち着いていたが、交通安全・基本的な生活習慣に関しては、引き続き生徒の意識を高揚させることが必要である。幼稚な生徒が年々増加している傾向があり、自ら考え、社会の一員であることを自覚した生き方を見出すよう指導したい。また、精神的に弱い生徒に対し、学校カウンセラー等、教育相談室がよく機能しているが、これからも継続した指導が必要である。

進路指導

例年実施している取り組みを実施するとともに、ここ数年の課題である家庭学習の定着について進路指導委員会等で検討した。また、進路意識向上に向けた説明会、保護者進路講演会など新しい取り組みも継続して実施できた。次年度は各取り組みに計画的、組織的に取り組み、結果を検証しながら成果をあげていく

総務

施設設備の安全点検は毎学期実施し、不良箇所の補修を行った。情報活用能力の向上を図るための校内研修も実施し、セキュリティ意識が高まった。また、豊浦高校ホームページを今年から新しく作製し、きれいで見やすいホームページになった。さらに、ホームページ担当者会議を計画通り開催し、本校ホームページの整理、充実が行われた。

保健体育

虫歯治療率を上げるために、毎学期ごとに治療勧告を個別に行ったが、治療率が上がらなかったため、次年度は、歯科検診後の事後措置時や保健便り配布等の機会を捉えて保健指導・保健教育を行う等工夫していきたい。清掃活動の充実を引き続き徹底していきたい。

特別活動

部活動については90%近くの加入率のもと、活発な活動が行われた。学校行事では、各行事とも真剣に取り組まれており、自主性、協調性等が養われたと思われる。また、各種委員会活動やボランティア活動も計画的、自主的に行われた。いずれの活動も成果が出ており、これからの課題は「生徒数減になっていく中、これらの活動をいかに継続していくか。」である。

図書

昨年度と同様に、生徒・教職員の希望図書を積極的に購入し、常に新しい資料を提供できるよう努めた。図書委員に対する室内のディスプレイ講習にも参加したことから、今後その点にも力を入れていきたい。

1年

学習習慣と基礎学力の定着をめざし、学習合宿など新規の取り組みを行った。その結果、学習意欲が高まり、力をつけた生徒もかなり見られた。ほとんどの生徒が学習と部活動の両立を図っており、毎日熱心に取り組んだ結果、心身ともにたくましさを増した。来年度も引き続き進学を中心とした進路指導を折に触れて行い、学部・学科等の説明を通して生徒一人ひとりの進路実現につなげたい。また、「段取り力」については、個人差があるため継続して指導していきたい。

2年

学習と部活動の両立を図ろうと、しっかり取り組んでいる生徒が多い。学校外での活動に取り組んでいた生徒もいるが、意識の差もあるので、行内での活動にも取り組ませることが肝要である。学習だけ、部活動だけにならないように、きめ細かな指導を続けたい。一部の意欲のない生徒への指導ができていないのが、今後の課題である。帰属意識を持たせたい。

3年

進路実現に向けて、個人面談、学年集会、学年だよりなどの様々な取り組みを通して進路意識の向上を図ることができた。ただ、多くの生徒が受験に向けてのスタートが遅くなり、絶対的な学習量不足が見られた。また、受験科目を減らし国公立大学から私立大学へ安易に進路変更するなど、最後まで諦めずに粘り強く取り組む姿勢に欠けた。

業務改善

昨年度より超過勤務時間数が減少し、必要に応じて休暇をうまく活用する教職員が増加してきているように感じている。学校の抱える課題や求められる取組も少しずつ変化しているが、それに対応しており業務や委員会等については常にスクラップ&ビルドを心掛ければならない。超過勤務の原因となっている部活動の指導についても、教員の負担軽減についてのさらなる検討が必要がある。

7 次年度への改善策

教務

家庭学習時間の増加、予習-授業-復習の学習サイクルの確立を図るために、学年・教科間で連携して「学習オリエンテーション」から「チャレンジタイム」にいたる初期指導の充実を行いたい。さらに、学年・教科間で連携して適切な課題を日々与え、それを評価し、生徒自らが普段の学習量を増加していく意欲をつける支援を行いたい。また、授業評価を十分に活用しつつ、研究授業・互見授業の実施を通して積極的に授業改善に努め、生徒の学力向上に結びつけていきたい。

生徒指導

自転車事故、自転車マナーの悪さに対する苦情は少なからず残る。根気よく指導したい。特に、「交通安全教室」については、3年周期で形式を変えていく指導が定着してきており、これを継続したい。

交通関係、基本的な生活習慣いずれについても引き続き、教職員全員が取り組む体制を図っていきたい。

進路指導

入学後の初期指導について計画を実施し、進路意識の向上、家庭学習の定着など成果をあげる。また、進路検索室の利用度をあげるための環境整備にも取り組む。

総務

施設設備の安全点検は次年度も毎学期実施したい。情報活用能力の向上を図るための校内研修も毎月実施し、セキュリティ意識を高めたい。また、ホームページ担当者会議を計画し、新しくなった本校ホームページの整理、充実を行いたい。

保健体育

虫歯治療率を上げるために、次年度は、歯科検診後の事後措置時や保健便り配布等機会を捉えて保健指導・保健教育を行う等工夫していきたい。各学期の清掃活動の状況を見ながら、掃除の徹底を継続していく。

特別活動

特別活動全般を通して、教員全員の共通理解を図り、内容・運営方法等、常に「PDCA」を実行していきたい。

図書

常に新しい情報を取り入れて生徒・教職員の要望を先取りし、本校図書室が読書活動のリーダーとなるようにしたい。図書委員による新聞発行や新刊図書案内ポスター掲示も引き続き行くと同時に、読書会の内容の見直しも図りたい。

1年

進路実現のために、進学に関する情報収集能力の向上を図る。そのためには、教室や廊下の掲示板に各大学の最新情報などを掲示して生徒の興味・関心を高めるとともに、進路資料室や進路検索室の活用を促すために、進路課とクラス担任の連携が重要である。また、厚みのある学習を実現するために、日頃の学習習慣の定着をより一層深めるアドバイスが各教科担当やクラス担任などからなされる必要がある。

2年

進路実現に向けて、まとまりのある学年を作り、自ら行動する115期として位置付けたい。行きたい大学、なりたい自分を考えさせ、さらなる高みへ向け指導していきたい。志望校が母校となるように、足を運ばせ、目と耳で確認するように助言する。進路目標の高い者や成績上位者に、質の高い学習内容や機会を用意しなければならない。鍛えるべきところに、力を注ぎたい。

3年

生徒だけでなく保護者も含めて、早期に進路意識を高めさせる必要がある。大学の合格を容易に実現できると考えている生徒が多いので、受験の厳しさを伝える必要がある。生徒層における二極化が進みつつあるので、成績上位者だけでなく成績下位者への手立てが重要である。学校不適應の生徒については、保護者、学年団、および関係部署と連絡を密にしながら生徒に対応することが望まれる。

業務改善

必要性が低い会議や取組を見直して、業務の重点化とスリム化を図りたい。また、教職員の健康保持のため、超過勤務の低減や適切な休養日の取得などについて職員全体の意識を高める方策を検討したい。